

どか、<sup>しよくこう</sup>職工どか、<sup>こあきんど</sup>小商人どか、<sup>かごうしやかい</sup>下等社會の子供であり  
ます。

紀州新宮の手毬歌

4 1 1 2 3 # 4 3 2 | 3 # 4 3 3 2 | 7 6 - 0 1 |  
 トリテハンヅノインサマ ニ カイカラオ チテ ナ

1 2 3 # 4 3 2 | 3 # 4 3 3 2 | 7 6 - 0 1 |  
 ヨシミ ヅクレ ハ 田 クレチヨイ トクレー カ

1 2 3 # 4 3 2 | 3 # 4 3 3 2 | 7 6 - 0 1 |  
 ドノマンナカノ ド ロミヅク レテ コ

1 2 3 # 4 3 2 | 3 2 7 2 3 - | 3 2 7 2 3 0 ||  
 レガノ マリヨカ ドロミヅチー ドロミヅチ

取<sup>とり</sup>出<sup>で</sup>遍<sup>へん</sup>照<sup>じやう</sup>院<sup>いん</sup>様<sup>さま</sup>、二<sup>に</sup>  
 階<sup>かい</sup>から落<sup>お</sup>ちて、お  
 よし、水<sup>みづ</sup>くれ、は  
 よくれ、ちよいど  
 くれ、かぞのまん  
 なかの泥<sup>どろ</sup>水<sup>みづ</sup>く<sup>ら</sup>れて  
 これがのまりよ  
 か、泥<sup>どろ</sup>水<sup>みづ</sup>を〜。

研究漫録

M H 生

▲子供の觀念界を、知ることは、吾々に取りて、最、  
 必要なことである。吾々には、分り切つた言葉でも、  
 中々、子供には、分らぬことが、多い。不注意な者は、  
 一向、其邊を、無頓着に、唱歌でも、談話でも、やつ  
 て居る様であるが、なるべく兒供に適した、やさしい  
 言語、文句を、使ふ様に、心掛けねばならぬ。嘗て、  
 三歳から、五歳までの子供二十人に向つて、弟<sup>をことう</sup>と云ふ  
 言葉を、聞かせた時、子供の心に浮み出た考は、「おど  
 うふ」おこうこ」等であつた。

▲數量比較の觀念の中でも、重量の觀念の如きは、小  
 學以上の生徒、或は、時によると、吾々にでも、甚、  
 漠然として居る、例令ば、砂糖一斤と云つても、其一  
 斤は、果して、どれほどの重さであるか、實際の觀念